

2022年度海外研修等参加報告書 MASCC/ISOO2022@virtualに参加して

慶應義塾大学薬学部

河添 仁
Hitoshi Kawazoe

1. はじめに

日本医療薬学会 2022 年度海外研修等助成として、2022 年 6 月 23～25 日の期間、ハイブリッド形式で開催された国際がん支持療法学会 2022 (Multinational Association of Supportive Care in Cancer/International Society for Oral Oncology: MASCC/ISOO Annual Meeting 2022) にオンラインで参加する機会をいただいた。

2. MASCC/ISOO2022@virtual

MASCC/ISOO 年会は、がん領域の支持療法の臨床、教育および研究を取り上げる国際学会である。コロナ禍が落ち着き、2022 年はトロントとオンラインによるハイブリッド開催となった。我々の研究チームからは、口頭発表 2 つとポスター発

表 3 つが採択された。

- Kawazoe H, Ogiwara T, Egami S, Hashimoto H, Saito Y, Sakiyama N, Ohe Y, Yamaguchi M, Furukawa T, Hara A, Hiraga Y, Jibiki A, Yokoyama Y, Suzuki S, Nakamura T: Baseline medications with nivolumab or pembrolizumab plus neutrophil-to-lymphocyte ratio and survival in patients with non-small-cell lung cancer (ポスター発表)
- Mamishin K, Tashiro R, Kawazoe H, Seto K, Saito Y, Hashimoto H, Yonemura M, Terakado H, Furukawa T, Nakamura T, Kawasaki T: Risk factors for severe anemia in patients with advanced breast or ovarian cancer receiving olaparib monotherapy: A multicenter retrospective study (ポスター発表)
- Yamamoto S, Iihara H, Uozumi R, Kawazoe H,

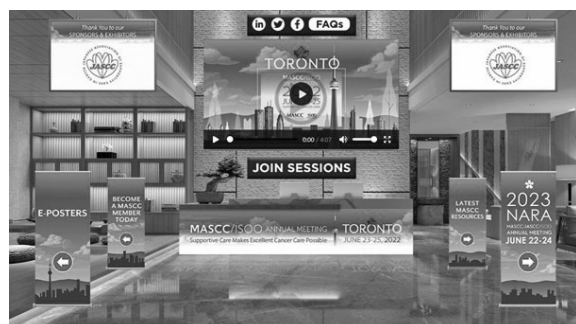


写真 1 オンライン会場



写真 2 チャン年会長 (カリフォルニア大学薬学部) による開催挨拶 本人に使用許可取得済み

Tanaka K, Fujita Y, Abe M, Imai H, Karayama M, Hayasaki Y, Suda T, Nakamura K, Suzuki A, Ohno Y, Morishige K, Inui N: Pooled analysis to investigate the efficacy and safety of 5 mg olanzapine for carboplatin-induced nausea and vomiting (ポスター発表)

- Nasu I, Kawazoe H, Shimano R, Miura Y, Takano T, Hayashi M, Nakamura T: Patient-related risk factors for nausea and vomiting with standard antiemetics in patients with receiving carboplatin based chemotherapy (口頭発表)
- Iihara H, Yamamoto S, Uozumi R, Kawazoe H, Tanaka K, Fujita Y, Abe M, Imai H, Karayama M, Hayasaki Y, Suda T, Nakamura K, Suzuki A, Ohno Y, Morishige K, Inui N: Efficacy of adding NK₁RA to 5 mg olanzapine, 5HT₃RA, and dexamethasone for carboplatin-induced nausea and vomiting (口頭発表)

本稿では、筆者のライフワークの1つである制吐療法について、「制吐療法：何が新しい？」のセッションを取り上げる。前述した我々の研究チームの口頭発表2つも当該セッションであった。国際的な視点で、実臨床における制吐療法の現状を知ることができた。驚くべきことに、東ヨーロッパ諸国のなかでも高度催吐性リスクのシスプラチン、AC（ドキシソルビシン+シクロホスファミド）療法およびカルボプラチンに対する制吐療法としてニューロキニン1受容体拮抗薬併用3剤療法は標準治療ではなかった。MASCC/ESMOガイドライン2016があるにもかかわらず、医師の制吐療法の認識は低く、標準制吐療法の遵守率は低かった。アルバニアとブルガリアでは、アプレピタントが未承認であった。また、AC療法やカルボプラチンでは、ニューロキニン1受容体拮抗薬が高額であることから、アプレピタントやNEPA（ネツピタントとパロノセトロン合剤）が保険償還されない国（セルビア、モンテネグロ

およびボスニア・ヘルツェゴビナなど）や二次治療からという使用制限がある国（ハンガリー、スロバキアおよびチェコ共和国など）があった。演者のBošnjak教授は経済的毒性と表現していた。これらの障壁を取り除いて、世界中でがん化学療法を受ける患者が最適な制吐療法が受けられる環境整備を行うという国際支持療法学会の使命を感じた。今回、我々の研究チームが発表したカルボプラチンに対するオランザピン併用3剤療法は費用面からも、選択肢の1つになると考えられる(*BMC Cancer*, 2022, **22**, 310)。

3. 展望

現在、新規制吐薬は開発されていない。海外では、医療用カンナビノイドの使用や生姜サプリメントの有用性が報告されている。チーム医療における薬剤師の役割は、薬学的見地から有効かつ安全性の高い薬物療法に貢献する必要がある。薬剤師は「エビデンス」の使い手で終わるのではなく、「エビデンス」の創り手として、実臨床で生じた「臨床的疑問」を「研究的疑問」に変換して、臨床的課題解決を目指した研究に取り組むことができる。我々の研究チームはオランザピンのように既存薬の適応拡大を目指したドラッグ・リポジショニングで新規制吐療法の動物実験や前向き第II相臨床試験（特定臨床研究）を展開している。

一方、臨床系教員の立場から卒前・卒後教育として、国際的な視点を持ち、臨床的課題解決に向けた研究を展開できる次世代リーダーを輩出していきたい。来年、MASCC/ISOO2023は日本で開催予定であり、本邦薬剤師による研究発表を期待する。

4. 謝辞

最後に、海外で開催される国際会議への参加による最新の知見の修得の機会を与えてくださった日本医療薬学会国際交流委員会をはじめ関係各位に謹んで感謝申し上げます。